

令和7年1月20日開催
令和6年度第2回習志野市災害医療対策会議
資料2-5

令和6年度習志野市災害医療対策本部及び応急救護所訓練 反省結果

できた ○
できなかった ×
どちらでもない △

応急救護所

【到達目標1】 応急救護所において、設営手順（場所・位置）や物品の扱い方（発電機・ライト・無線）、校内にあるAED等使用物品が役割に関係なく確認・設営できる。				
	保健会館	2中	7中	備考
①倉庫等の開錠方法を理解し災害備品・医薬品の保管場所・AEDの設置場所を確認できた	○	○	○	
②発電機・バルーンライト・無線等物品の扱い方を確認できた	○	○	○	【2中】 バルーンライトのコネクター部分の接触不良があり、初めは点灯しなかった。 【7中】 できる人が設置してくれるため、会場としては「できた」になる。やったことがない人はいる。
③災害備蓄している救急セット・医薬品・物品等内容を確認できた	○	○	○	
④物品について				
確認し不足していたもの	【保会】 ・地図 災害マップのカラーのもの。 ・ホワイトボード記載用の透明シート 【7中】 緑色のテープ			
使用できないもの	【7中】 懐中電灯（電池未確認）、ホワイトボードマーカー（各色2本は可）			
あったらよいもの	【2中】 無線連絡用の経過記録用紙があるとよい。また、無線用として記録用紙、報告用紙、ペン、時計をひとまとめにしておくとい。			
⑥配置図をみながら設営できた	○	○	○	
⑦今回の訓練で配置図の変更した点	【保会】 配置図の変更はないが、今後治療スペースにマット等を用意し、患者を寝かせるスペースを作れると良い。 【7中】 受付机2台を1台に変更			
検討事項				
・バルーンライトについては、R6.2月業者にて点検実施済。担当にて再度確認・点検実施する。 ・提示された物品については、補充・整理を行う。				

【到達目標2】②START法による一次トリアージの理解が深まり、応急救護所で協力し合いながら、的確なトリアージができる。また、応急救護所において、トリアージ症例を通じ、傷病者受け入れ後の一連の流れを確認する。

	保健会館	2 中	7 中	備考
①傷病者受付～トリアージ～傷病者の搬送依頼の流れが理解できた	○	○	○	【7中】 無線担当者の応急救護所の状況確認や搬送決定後の治療担当者との情報共有の流れがわかりにくい。
②机上訓練で一次トリアージの手順を確認し、トリアージタグに傷病者の状況を記入・処理できた。	○	○	○	
③各記録用紙を使用できた	○	○	○	【7中】 診療記録をどこまで記入するのか、医師が悩まされていた。薬剤師会員より、診療記録の変更があったのか質問あり。

検討事項

- ・「情報共有の流れ」「傷病者受付～搬送までの流れ」の原則を再確認・整理する必要がある。有事の際は人員等限られるため、参集メンバーでよりよい方法を模索する必要がある。
- ・災害診療録は、R6.3月習志野市災害時医療救護活動マニュアル改訂時にマニュアルと各会場の書式を2018年版に変更している。

【情報伝達・情報整理】

	保健会館	2 中	7 中	備考
①音声での通信ができた	○	○	○	【7中】 アマチュア無線会員より、無線使用時「訓練」と言っていなかったと指摘あり。法律で決められているので、訓練であることをいう必要がある。
②無線担当者と記録担当者の連携がスムーズにいった	○	○	○	
③画像伝送ができた	○	○	○	
④印刷ができた	○	○	○	
⑤随時応急救護所責任者へ報告できた	○	○	○	
⑥無線で得られた情報をホワイトボードに記載できた・整理できた	○	○	○	

【役割】

	保健会館	2 中	7 中	備考
①各自の役割を実施できた	○	○	○	
②手が空いている時に、他の役割をサポートできた	○	○	○	【7中】 声を掛けあうとよい。

【その他、ご意見等（次年度の訓練に向けて等）】**【保会】**

- ・住民の6%が外国人。受付に1~2人英語がわかる人を配置してほしい。
- ・無線のコーナー 搬送先の記録全て1度に決まるわけではないため、記録用紙が何枚かあった方がいい。
- ・トリアージで赤タグをつけてから本部に報告、搬送先の連絡が来るまでに1時間かかっている。
- ・1次、2次トリアージのコーナーに訓練時から血圧計などの物品用意しておけると良い。
- ・薬の在庫の確認が必要。

【2中】

- ・事例を通して訓練をしてみると、細かな点についての疑問もでて、それらを確認することができてよかった。（診療記録を記入し、その用紙をどう情報共有して、紙をどこに保管するか、その流れの確認など）
- ・今回はスムーズ過ぎるくらいに訓練が実施できたが、実際に流れを確認できてよかった。訓練では少しずつ改善点を見つけ、改善をしていけるとよい。
- ・無線機のケーブルの劣化あり

【7中】

- ・無線記録担当が無線の内容をどこまで記録すべきかわからない。報告だけの無線内容もあるがそれが終了した件なのかわかりにくいので工夫が必要。
- ・最初各自の役割がわからなかったので、大きな紙に書いて掲示するとよいのでは。訓練前に打合せ日を別に設けるのもよい。
- ・傷病者受付からの一連の流れをわかりやすいフローチャートにしてほしい。
- ・無線の内容が災害情報と医療情報が混在していてわかりにくい。チャンネルを分けることはできないか。
- ・患者情報をEMISで送り無線で確認するのは無駄。情報記録表をタブレットなどで撮影し画像で送ればよいのではないかな。
- ・情報訓練は、医療機関のやり取りが多く、災害情報等が少なくほぼ聞いている状況だった。
- ・ケースの受け入れから搬送依頼までを、ゆっくり確認しながら行ったが、不安点が多かったため2回実施した。書類が多く、書類の保管方法等忘れていたことが多かった。設営から、患者の受け入れまで、知っている者を増やしていくことが必要。

検討事項

- ・災害時人員は限られることから、外国語変換機器（ポケトークやスマホアプリ等）や市民協力の依頼等も含め検討する。
- ・各会場からの要請に対する回答は、定期的に医療本部にて情報の整理・確認が必要である。また、要請側も随時再確認する等互いに確認しあう必要がある。
- ・各応急救護所に役割表を配置し、参集者が自身の役割を確認できるようにする
- ・無線の混線等は各会場生じており、医療本部においても無線回線の増設の意見が出たが、増設することにより混乱が生じることが想定される。無線通信の許容も限りがあるため、無線で伝える内容の精査・優先順位を検討する必要がある。